

祝賀会スピーチ

アメリカンレンタル協会
広報部理事 ケン・ヒューズ



大阪建設機械リース協同組合理事長・北野一雄様、並びに副理事長の方々、組合員の皆様、名譽あるゲストの皆様方に、私どもアメリカンレンタル協会を50周年式典というこの特別な日にお招き頂きましたことを感謝いたします。

アメリカンレンタル協会の理事でありカリフォルニア州カーソンのMultiquip Incorporated代表取締役であるロジャー・ユーリス氏、またレンタルマネジメント誌の編集者であるウェイン・ウォーリー氏、そして広報部理事およびレンタルマネジメント誌の発行者である私ケン・ヒューズは、本日アメリカンレンタル協会を代表し、参加させていただいております。皆様の50周年の記念を心からお祝い申し上げます。

アメリカンレンタル協会のCEOであるクリスティン・ワーマン女史も心からお祝いを述べるとともに、今回参加できなかったことを大変残念に思っているとのことです。

50周年というのは偉大な業績であり、その記念を祝っているわけですが、皆様もその長きに渡り団体の中で、個々の事業において、組合員各社において、またレンタル・リーシング業界において、おそらく多くの変化を見てこられたと思います。これら一つ一つの変化を振り返ると、この50年目の「誕生日」に対して、きっと大変誇らしい思いでいられるでしょう。

—06年に50周年を祝う—

私どもアメリカンレンタル協会では、2006年2月にフロリダ州オーランドで開かれた「レンタル・ショー」にて50周年の記念を祝いました。この「レンタル・ショー」というのは、私どもによって毎年開催される展示会および会議です。なお、来年の「レンタル・ショー」は、アメリカで最も楽しい都市の一つであるラスベガスにて開催予定となっています。期間は、2008年2月9日から14日まで。ラスベガスで皆様とまた是非お会いできれば幸いです。

先ほど申し上げました私どものレンタル・ショー並びに50周年式典には、たくさんの方々がお越しくださいました。私ども全員にとって、その50周年式典の記憶は、とても楽しい思い出として胸

に刻まれています。ですから今日という日も、皆様一人ひとりが同じような感情を抱いていることでしょう。

さて、アメリカンレンタル協会の始まりですが、当初はアメリカの中西部一帯にビジネスを構えるほんの少数の事業主たちによって創立されました。このビジネスマンたちがグループを形成し、同業者を支援できる団体を作り上げようとした、これは、とても驚くべきお話です。

まず、これら賢者の一人に、レナード・ホークという方がいました。この方は、アメリカンレンタル協会の初代会長です。現在、80歳を超えてますが、とても元気でいらっしゃいます。すでに引退はしているものの、彼が残したビジネスを継いだ二人の息子たちを尙も見守っているのです。

ホーク氏は私どもの50周年式典にも参加され、そこではとても誇らしげに何度もどのようにこの団体が自分達の手で始まったかという話をしていました。そして、この団体が遂げた目覚しい成長に驚いていると仰っていました。ちなみにホーク氏は、私どもの団体のことを「僕の団体」と呼んでいます。また、レンタル業界も成長し、そしてここ50年の間に様々な事業が繁栄の道を進んで行ったわけですが、ホーク氏はそのことにも驚きを表していました。「モーリーンという街にある私の小さなオフィスで話し合いを行った日から、本当に50年経ったのか！？」このように、ホーク氏は何度も尋ねていたそうです。ところで、イリノイ州モーリーンは今も尚、アメリカンレンタル協会の本拠地となっております。

私どもの50周年式典では、私どもの会員、当団体や事業と友好関係にある方々、そして仕事関係の方々の多くが何時間も、また人によっては何日間も語らいの時を持ちました。実に素晴らしい話を分かち合い、またその他たくさんのことでも話し合いました。たとえば、各自の事業について、団体について、経済について、思い出について、そして勿論長年に渡り出会った方々についてなど。

—ビジネスメンバーは4,800以上—

今日、私どもの団体には、4,800以上のビジネスメンバーが在籍しています（地域は、8,500以上）。Associate memberと呼ばれる準会員、つまり機材やサービスを提供するメーカーやサプライヤーのことですが、その数は1,200です。また、会員は世界中にいて、40カ国以上となります。今、この会場にもアメリカンレンタル協会の会員の方々がいますね。本当にありがとうございます。

さて、私どもの2006年度のレンタル機材市場リサーチによると、レンタル業界の総売上げはアメリカとカナダで約330億ドル（約3兆9,600億円）となりました。中でも、建設関連が最大のシェアを占め、売上高は230億ドル以上（2兆7,600億円以上）でした。それに続いたのは一般用具・日曜大工市場の72億ドル（約8,640億円）、そしてパーティ＆イベント関連の20億ドル（約2,400億円）でした。このような結果ですが、今日ここに集まつた皆様も記念すべき日を祝いつつ、私たちが味わった

ような結果と同じようなものをたくさん分かち合うことができると思います。それは、皆様の団体、組合員の方々、そして勿論今日出席された方々と繰り広げられるであろう個々の事業において、今述べたと同じようなことを実現して行くでしょう。

皆様のビジョンの先駆者であった方々が50年前、この団体を始めるにあたり、一体どのようなことを思い描いていたのでしょうか？先に述べた私どもの結果について、「ここ日本でも実現できるか？」と聞かれたら、彼らはきっと、「勿論！そのような結果を実現するにちがいない」と答えたと思います。そしてもし、その方々が今日この場にいたらきっと、フロリダ州オーランドでのホーク氏と同じように誇らしい思いに浸るでしょう。

皆様の団体を立ち上げた明敏なビジネスマンの方々には先見の目があったと思います。そして、団体たるもののは強くあると同時に組合員に対してビジョンを提供しなければならないと知っていたでしょう。私はこの度、この団体の組合員の方々の何名かと実際にお会いし、お話しすることができました。その結果、私が思うには、今の皆様がこの素晴らしい団体の一員であることは、創立者たちにとって非常に誇らしいことでしょう。50年という年月を達成するのは称賛に値します。重ね重ね申し上げますが、本当におめでとうございます。

今日この式典会場を後にする際、どうか素晴らしい思い出と新しい友情とともにお帰りいただけよう願います。私や私のアメリカンレンタル協会の同僚達に関しては、私たちがアメリカに帰国した際に、この特別な日と大阪で過ごしたひと時について、たくさんの素晴らしい思い出と楽しいお話をアメリカの仲間や家族たちに土産として持ち帰ると信じています。

私は今日、ゲストの一人としてお招き頂いた名誉に賜っておりますが、まず窓口として対応してくださいました菅原電機産業株式会社・代表取締役で大阪建設機械リース協同組合・副理事長の菅原進様に、個人的に感謝の意を述べたいと思います。また、大阪建設機械リース協同組合がご招待くださいり、心のこもったご連絡をしてくださったからこそ、私どもは今日、皆様とこの会場に出席できているのです。理事の皆様のお助け、そして友情故に、この50周年記念式典にご招待頂きありがとうございます。この特別な日を皆様と一緒に過ごせることを大変嬉しく思います。

また、式典準備委員会の方々に特別な感謝とお祝いの言葉を述べたいと思います。皆様は、本日の式典実現のため、素晴らしい働きをされました。このような準備は簡単なものでは決してありません。ですから、式典準備委員会のお一人お一人に感謝いたします。

では、最後になりますが、大阪建設機械リース協同組合、理事の方々、組合員の方々、そしてゲストの方々に多幸な50周年をお祝い申し上げると共に、今後のさらなる成功、幸せ、繁栄をお祈り申し上げます。